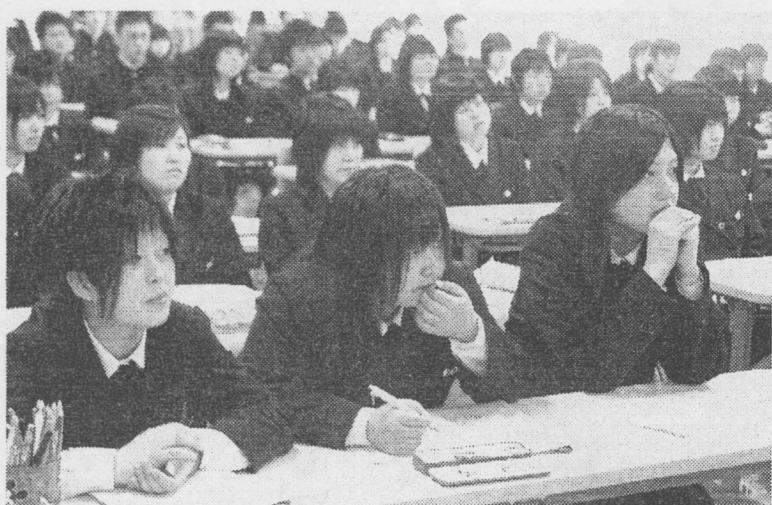


東大助教授の玄田有史さん

逃げずにチャレンジを

釜石商高3年生にエール



「希望はなかなかかなうのではないが、夢を持ち続けることによってやりがいのある仕事に出会えるようになる。失望することによってやりがいのある仕事が分かるようになるものだが、希望がなければ失望

〔玄田有史さん（顔写真）のアドバイスに耳を傾ける釜石商高的生徒ら〕

「希望学プロジェクト」の返礼で講演

卒業後就職する生徒の割合が高い県立釜石商業高校（斎藤静雄校長）で22日、釜石市主催の労働意識啓発講演会が開かれ、東京大学社会科学部研究助教授の玄田有史さん（経済学博士）が「動くってどうしたこと」をテーマに講演した。これから就職など進路の壁に立ち向かう3年生の生徒らに対し、玄田さんは「壁を前にしつかりと悩み、決して逃げ出さない」と。そこから必ずチャンスが生まれる」とエールを送った。

「やりたいことを一人で考えても、なかなか見つからない。価値観や生き方が違う人と緩く付き合うことで世界が広がり、必然的な偶然が舞い降りてくる『ありがとう』とあいさつすることでも発見するものも多い。『わからない』から逃げずにいれば必ずチャンスはやってくる」と玄田さんはやったときに自分の損得勘定に囚われると、良い生き方はできない。大事なことをちゃんと悩み、逃げ出さないと。何げないつながりの中から、いろんなチャンスが生まれてくる」など、生徒らに前向きな

「ない」と玄田さん。「やりがいのある仕事を持っている人は『たまたま』などと言うが、そこには必然的な偶然がある」とした上で、共通点として①さまざまな友人を持つ②あいさつをする③逃げずにチャレンジするの3つを挙げた。

「やりたいことを一人で考えて、なかなか見つからない。価値観や生き方が違う人と緩く付き合うことで世界が広がり、必然的な偶然が舞い降りてくる『ありがとう』とあいさつすることでも発見するものも多い。『わからない』から逃げずにいれば必ずチャンスはやってくる」と玄田さんはやったときに自分の損得勘定に囚われると、良い生き方はできない。大事なことをちゃんと悩み、逃げ出さないと。何げないつながりの中から、いろんなチャンスが生まれてくる」など、生徒らに前向きな

〔N.H.K.生活人新書〕があるなど、「ニート（就学・就業していない若者）の問題についても詳しい。

玄田さんは、東大社会科学院研究所が今年9月に釜石市で調査を行うことになった「希望学プロジェクト」のリーダーで、釜石市がフィールド・

研究員として活動。学習院大教授を経て、02年から現職。専門は労働経済学で、著書に「子どもがニートになつたなら」

〔玄田さんの話には、釜石商高的3年生79人のほか、生徒の父母や教職員らが耳を傾けた。この講演会は23日、釜石工業高でも行われた。〕

生き方をアドバイスした。

玄田さんは島根県松江市出身で、東大経済学部卒後、ハーバード、オックスフォード大学の客員